

昭和二年の風景写真

小袋谷の地名には谷の字が付いていません。長い間居住していますが、ここがタニという感じはありません。亀の甲山がある位でほぼ平坦な地区です。鎌倉市史考古編によると、縄文時代の海面上昇により低地が海となり、小袋谷は三分の二が入江で、山を除く残りの大部分は湿泥地だったそうです。現在に近い所まで海岸線が下がったのは弥生時代後期だそうです。入江だった所のほとんどはその頃から近代まで湿泥地の状態でしたので、その多くが水田として利用されました。だから小袋谷の谷の字はタニの意味ではなく、低湿地や湿泥地を意味するヤチやヤツとして名付けられ短縮してヤとなったのではないかと考えられます。

田畑や池沼が平坦に広がる様子を見ることができる今は昔の田園風景の写真が残っています。これは小坂村立小坂尋常高等小学校を昭和二年三月に卒業した生徒に贈られた卒業記念写真帖に載っていた写真です。この写真帖は大船の青木写真館が製作し、横浜の星野屋写真製版印刷社で印刷されたもので、写真はおおらく大正十五年から昭和二年年初までの間に青木写真館の方が撮影したのだと思います。近景には小学校の校舎や校庭が写され校庭で遊んでいる子供達の多くは着物姿です。そしてそのうしろには柏尾川までさえぎるものがなく平坦に小袋谷地区と大船地区の田畑が広がっています。川向うには玉縄地区の山や丘が連なっています。写真の左には亀の甲山が、右上方には少しおぼろに離山の地藏山と長山の一部が写っています。古い写真は貴重な具体的歴史資料だと思います。